

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. B-47

<b>部門名</b> ：働き方改革実践部門	<b>エントリー名</b> ：香川県三豊市立勝間小学校
<b>活動名</b> ：「ONE TEAM」への挑戦 ～働き方改革で学校を活性化する～	
<b>解決すべき課題</b>	
<p>社会は大きく変化しているにもかかわらず、学校教育への期待（要求）は変わるどころか、より膨れあがってきている。子どもたちに対して魅力ある教育活動を行うためには、教職員の働き方や学校の勤務環境などを含め、学校が果たすべき役割を、これまでの前例や伝統に縛られることなく見直していくことが求められる。そして、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、一体（チーム）となって子どもたちを見守っていく必要がある。</p>	
<b>目標・方針</b>	
<p>いきなりの大改革ではなく、昨年度途中から試行的に実践したことを検証しながら、令和元年を「働き方改革元年」と位置付けた。そして、「校長がリーダーシップを発揮する」ことを基盤としつつも、教職員や保護者の声を参考にしながら、トップダウンではなくボトムアップの改革をめざそうとした。その際、「愛言葉」（スローガンなど）を効果的に使い、児童・教職員・保護者に「ONE TEAM」の意識をもたせることで、やりがいや生きがい、所属感を感じさせ、学校の活性化につなげようとした。＜資料 1＞</p>	
<b>活動内容</b>	
<p>1 「プロジェクト S S (September Start)」を始動し、これまでの教育活動を見直す。(H30.8～)      ・教育課程や行事等について、夏季休業中に教職員の意見をまとめ、「2 学期から変えること」「次年度から変えること」「変えないこと」に仕分け、段階的に改革を行うことにする。      ・「教育計画」に替わるものとして、「教育活動 365 日」を作成し、半年かけて見直す。＜資料 2＞</p> <p>2 「0 学期制」を導入し、年度当初の多忙感を解消する。(H31.1～3)      ・児童会専門委員会や異学年色別チームグループ編成などを 3 学期に行い、次年度担任に引き継ぐ。</p> <p>3 「働き方改革プラン」＜資料 3＞を策定するとともに、魅力ある学校づくりを推進する。(H31.4～)      ・働きやすい環境づくりや教職員の意識を変えるために、「ハード面」「ソフト面」両面からの改革を進めていく。      ・「働き方改革プラン」を PTA 総会等で、保護者や地域の人にも説明し、理解・協力を得る。</p>	
<b>活動の成果</b>	
<p>・教職員の自己評価やストレスチェックなどの結果から、仕事にやりがいを感じている者の割合が増えてきた。      ・「勤怠カード」の集計結果から、時間外勤務時間の割合が徐々に少なくなってきた。＜資料 4＞      ・1 学期保護者アンケートの結果から、学校評価の数値が高くなり、肯定的な意見が増えてきた。      ・教職員にゆとりが生まれ、子どもたちに任せる場面が多く見られるようになり、学校が活性化してきた。</p>	
<b>アピールポイント（アイデアや工夫）</b>	
<p>・職員室改造の際に、入り口に勤怠カードを設置し、勤務状況の“見える化”と習慣化を図る。＜資料 5＞      ・教職員の意識改革を行うために、教職員を“その気にさせる”ための様々な工夫を行う。      ＊ 教職員全員の名刺を作成し、4/1 の職員会で一人一人に手渡ししながら、担任や分掌をお願いする。      ＊ 学校通信「紅」や校長通信「SHARE」を使って、先生方の活躍の場面を紹介する。＜資料 6＞      ＊ 行事前には、「職員室道徳」を実施し、心情面に訴える。（命令形でなく、肯定形で話す）      ・チームの一体感や達成感を味わわせるために、「ポーズ」（バンザイ・WIN ポーズ）を効果的に活用する。</p>	

＜資料 1＞ 学校教育目標&スローガン

**教育目標** 「小さな社会人」の育成

**スローガン** 「空も飛べるはず」(H31: JUMP)  
 「変身 ～自分を変える・未来が変わる～」(H30: STEP)  
 「with you ～一緒に懸命～」(H29: HOP)

**「AKB140」への挑戦!**  
 A ありがとう 笑顔でニッコと!  
 K こしほね 心もシャキッと!  
 B バンザイ 天までビシッと!

**「3 間(さんま)」**  
 時間 現在は未来につながっています  
 空間 「居場所づくり」と「絆づくり」  
 仲間 みんな「かつまのなかま」です

**「学校の主役は先生です」**  
 学校の主役は子どもであると言われています。でも、先生がいなければ学校は成り立ちません。先生が元気だと、子どもも元気になります。先生が笑顔でいれば、子どもも笑顔になります。元気が笑顔は伝染します。先生がしっかりと主役を演じることができれば、子どもたちも安心して主役になれるのです。そのためには、健康が一番です。どんなに授業が上手な先生でも、そこにいなければ意味がありません。子どもや保護者にとっての最大の信頼は、「そこにいる」ことです。だからといって、体調が悪いのに無理をすることはできません。元気のなさも伝染します。体調が悪い時は、「えらい」といましょう。わからないことは「わからない」「教えて」と言おうと子どもたちに言うように、大人も「えらい」「助けて」と言っていないで、休んだら迷惑がかかる…。それを助け合い、支え合っていくのが「チーム」です。(4/1: 職員会)

＜資料 2＞ 「教育活動 365 日」(5 年)

	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
特別活動	入学式 運動会 交通安全 防災訓練 修学旅行	体育祭 プール開き 読書週間 読書週間 読書週間	プール開き 読書週間 読書週間 読書週間 読書週間	読書週間 読書週間 読書週間 読書週間 読書週間	読書週間 読書週間 読書週間 読書週間 読書週間	読書週間 読書週間 読書週間 読書週間 読書週間	読書週間 読書週間 読書週間 読書週間 読書週間	読書週間 読書週間 読書週間 読書週間 読書週間	読書週間 読書週間 読書週間 読書週間 読書週間
道徳	人生という道徳 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	
総合学習	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	
国語	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	
社会	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	道徳の大切さ 道徳の大切さ 道徳の大切さ	

＜資料 3＞ 「チーム勝間」働き方改革プラン

**「チーム勝間」働き方改革プラン(概要)**

＜方針 1＞ 個々の教員が改善意識を持ち、教員相互の協力により業務を効率化するとともに、組織的な対応により負担軽減を図る。  
 ＜方針 2＞ 校長の学校マネジメントにより、業務の負担軽減を図る。  
 ＜方針 3＞ 保護者や地域の理解・協力を得ることにより、教員の働き方を見直し、改善を図る。

◆ 教育課程の工夫・改善 <子ども・教職員ともに、時間的ゆとりを生み出す>  
 ・教職員や保護者の意見をもとに、日課や学校行事等を大幅に見直す。PTA 活動についても見直す。  
 ・外国語(活動)導入に伴い、水曜日課を変更する。(勝間っ子タイム・清掃時間のカットや時間短縮)  
 ◆ 「教育活動 365 日」の作成 <年度当初の多忙感を解消する・学習活動の効率化を図る>  
 ・「教育計画(年間指導計画)」の冊子の作成を廃止し、データ保存する。  
 ・学習内容をまとめた表を作成し、行事や他学年・他教科との関連を明確にする。保護者にも配付する。  
 ◆ 勤務環境・勤務時間の改善 <教職員が働きやすい職場をつくる>  
 ・職員室の大改造を行い、動線を見直すとともに、教員が対話しやすい環境をつくる。  
 ・勤怠カードを活用し、勤務時間を把握するとともに、勤務状況の“見える化”を図る。  
 ・午後 6 時に『ひといきつきながら』の音楽を流し、退勤を意欲させる。(退勤目標時刻は午後 7 時)  
 ◆ 家庭との連携・協力 <「学校がすること」と「家庭ができること」を精査する>  
 ・修学旅行や宿泊学習の荷物検査を学校で行わず、家庭で確認し、チェック表を提出してもらう。  
 ・自転車教室(3 年生対象)では、実技指導は行わず、家庭でお願いする(運動場開放)。  
 ・警報発令時対応は、午前 6 時メールを無くす(家庭で判断する)。

**「働き方改革」テーマソング**  
**ひといきつきながら**  
 作詞：岩田純平、作曲：生沢佑一、歌：山本彩

いつもの毎日 いつもの仲間たち  
 何でもなければ 素晴らしい日々

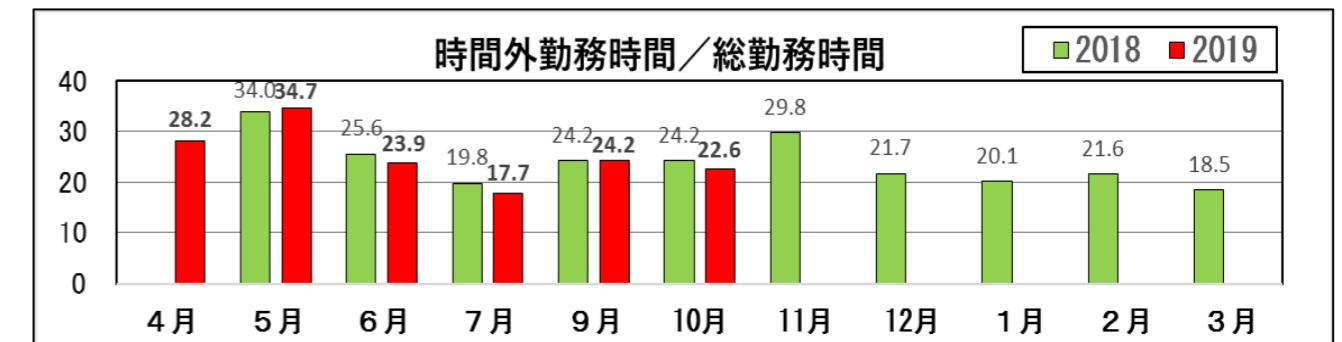
ひといきつきながら 人は人を想う  
 ひといきつきながら 人はつながる  
 一人だけ一人じゃない 心の中は一人じゃない

ひといきつきながら 人は一人たすむ  
 ひといきつきながら 人はひろめく  
 一人だけ一人じゃない 心の中は一人じゃない

ひといきつきながら 人はもっと働く  
 ひといきつきながら 人は生きてる  
 一人だけ一人じゃない 心の中は一人じゃない

今日を生きるすべての人に  
 幸せだと思える瞬間がありますように

＜資料 4＞ 時間外勤務時間の割合(勤怠カード集計結果) ※目標 22.8 以下(午後 7 時退勤)



＜資料 5＞ 職員室改造作戦



＜資料 6＞ 校長通信(体育祭 version)

